

# セット内容

製品パッケージには以下のパーツがセットされています。ご使用前にすべてが揃っていることをご確認ください。万が一不足がございましたら、お手数ですがお問い合わせいただいた販売店までご連絡ください。

**アームマイク UNIT 同梱品**

- アームマイク (150mm) × 1本
- アームマイク用スポンジ × 1個

**共通同梱品**

- SB4X Lite 本体ユニット × 1台

**ワイヤーマイク UNIT 同梱品**

- ワイヤーマイク (250mm) × 1本
- ワイヤーマイク用スポンジ × 1個

**共通同梱品**

- 貼り付け型ベース × 1個
- 面ファスナー (貼り付け型ベース用) × 1枚

● スピーカー固定用調整パッド × 4枚

● スピーカー固定用ベルクロテープ × 2枚

● ヘルメットスピーカー × 1個

● 充電用 USB ケーブル (データ通信時にも必要) × 1本

● データ通信用 USB アダプターケーブル × 1本

● ユーザーズマニュアル兼保証書 (本書) × 1部

● クイックマニュアル × 1部

# SYGN HOUSE B+COM Bluetooth Communication system

## B+COM ブルートゥースコミュニケーションシステム TYPE:SB4X Lite クイックマニュアル

### B+COM SB4X Liteは下記のような構成になっています。

**共通同梱品**

**スピーカー固定用ベルクロテープ**  
スピーカーをヘルメットに固定します。外面が接着シート、内面がファスナーなので、スピーカーの取り外しが簡単です。必要に応じて間に調整パッドを入れてください。

**面ファスナー**  
貼り付け型ベースをヘルメットに固定します。外面が接着シート、内面がファスナーなので、ベースの取り外しが簡単です。

**貼り付け型ベース**  
ヘルメットの外側に直接貼り付けるベースです。

**本体ユニット**  
フェイスプレートはオプションでお好みのカラーに着せ替えが可能です。

**スピーカー固定用調整パッド**  
ヘルメットのイヤールールが深い等の場合は、パッドで調整してください。

**ヘルメットスピーカーR/L**  
径44mm、厚み約8mmの薄型、高音質ステレオスピーカーです。

**アームマイク UNIT 同梱品**

**アームマイク用スポンジ**  
マイクに接する事で物理的に風切り音を軽減します。必ず使用してください。

**アームマイク**  
風切り音を軽減する高性能デジタルECMです。スポーツジェットタイプ、ジェットタイプにおすすめてください。

**ワイヤーマイク UNIT 同梱品**

**ワイヤーマイク用スポンジ**

**ワイヤーマイク**  
フルフェイスやシステムヘルメットに最適なマイクです。システムタイプ (フリップアップ)、スポーツジェットタイプの一部ではチェックパッド内に仕込むことで快適な使用感が得られます。口元にゆとりが無いフルフェイスの場合もチェックパッド内に仕込むのも有効です。

**別売品**

**ワイヤークリップ型ベース**  
ヘルメットの帽体の隙間に挟み込んで固定するベースです。強い固定力で安心感があり、取り外しも簡単です。

**マイクレスキャップ**  
音楽やナビの音声などを聴くだけの時、マイクレスキャップを使用すればマイクが邪魔にならずスマートかつ快適に音声を楽しめます。

# 電源を入れてみよう!

**B+COM 1 ボタン**

**デバイスボタン**

**B+COM 2 ボタン**

**LED**

**ボリュームダイヤル (15段階で調整可能)**

**電源 ON**

クリックしたまま、上へ約3秒間回します。

LED 青 1秒間点灯

**電池残量通知**

LED と音声で電池残量を知らせます。

LED HIGH... 青 1秒間点灯  
MID... 青+赤 1秒間点灯  
LOW... 赤 1秒間点灯

サウンド HIGH... [B+COM Let's Go!]  
MID... [Battery MID.]  
LOW... [Please Charge]

**スタンバイ**

操作を待機している状態 (電源を入れた後に、なにも操作していません) です。

LED 青点滅

**電源 OFF**

クリックしたまま、下へ1.5秒間回します。

LED 赤 1秒間点灯

サウンド Shut down

初めて使用するときは、必ず充電してください。

# B+COM同士で通話してみよう!

## I. B+COM同士をペアリング (初期登録) する。

- 電源をONにしてスタンバイ状態にします。  
LED 青点滅
- 3秒間長押しします。  
<両機とも> LED 赤高速点滅  
サウンド [B+COM 1 Pairing]
- 1回クリックして接続相手を探します。  
<片方> LED 赤中速点滅  
サウンド [B+COM 1 Calling]
- 相手機が下記状態になればペアリングは完了です。  
LED 青点滅

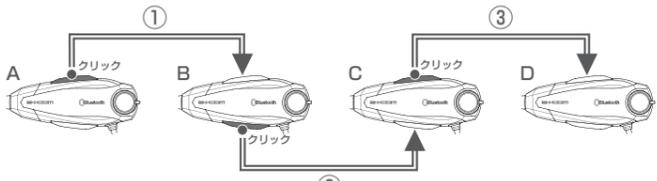
一度ペアリングを行えば、電源のON/OFFを行っても登録情報は消えないので、電源を入れてすぐに接続が可能です。  
上記手順と同様に、B+COM 2ボタンにもペアリングが行えます。(必ず同じボタン同士でペアリングを行ってください)  
→1台のB+COMに2台のB+COMの接続が可能です。  
ペアリング中は、ペアリングする機体以外のB+COMの電源をOFFにしてください。

## II. B+COM同士で通話する。

- 1回クリックして通話接続相手を選び出します。  
<片方> LED 青点滅  
サウンド [B+COM 1 Calling]
- 相手機は着信を認識すると着信のコール音が出力され、自動で通話が開始できます。  
LED 青点滅
- 通話中にB+COM1ボタンを1回クリックすると、通話は終了します。<どちらか片方> LED 青点滅

### 最大4人でグループ通話

以下の①、②、③の組みでペアリングした後、①→②→③の順番で呼び出しを行うと4人でグループ通話が可能となります。⇒の方向でのみ呼び出し接続が可能です。



※通話品質: 2人>3人>4人

※必ず、同じボタン同士でペアリングすること

# スマートフォンと接続して電話と音楽機能を使ってみよう!

## I. B+COMとスマートフォンをペアリング (初期登録) する。

- B+COMの電源をOFFにします。
- クリックしたまま、上へ5秒間回します。  
LED 青+赤高速点滅  
サウンド [Device Pairing ...]
- スマートフォンのBluetooth機能をONにして、「周辺機器を検索」(表現は機種により異なる) します。検索結果の中から [B+COM4] を選択します。  
PINコード (認証コードまたはパスキー) の入力求められる場合は「0000」を入力します。
- スマートフォンで「接続しました」等が表示され、B+COMが下記状態になればペアリングは完了です。  
LED 青点滅

一度ペアリングを行えば、電源のON/OFFを行っても登録情報は消えないので、電源を入れてすぐに接続が可能です。  
ペアリング中は、ペアリングする機体以外のB+COM (Bluetooth機器) の電源をOFF (またはBluetooth機能をOFF) にしてください。

## II. ハンズフリーで通話する。

**接続**

- スマートフォンのBluetooth機能をON
- B+COMの電源をONにします。
- スマートフォンで「接続しました」等の表示が出れば、接続完了です。※ LED 青点滅

**着信 / 通話**

接続中のスマートフォンに着信があると、スピーカーから電話の着信音が聞こえます。

1回クリックして通話開始します。通話が終わったら、もう一度クリックして終話します。

**発信**

接続中の携帯電話の最新発信履歴にリダイヤル発信可能です。

3秒間長押ししてリダイヤル発信します。通話が終わったら、1回クリックして終話します。  
サウンド Redialing

※B+COMの電源ON後、6秒間のみ自動で接続します (オートコネクト機能)。未接続のまま6秒間を過ぎた場合は、ボリュームダイヤルを上へ1回上げて接続をしてください。(マニュアルコネクト ※ボリューム操作が機能しない時のみ有効)

## III. 音楽を聴く。

**接続**

基本的に [II. ハンズフリーで通話する] にて接続操作を行えば、この操作は不要です。未接続の場合は、IIの接続操作を行ってください。

**再生 / 一時停止**

接続中のスマートフォンで音楽を再生するとスピーカーから音楽が聞こえます。

1回クリックすると一時停止します。もう一度クリックすると再生開始します。

**曲の頭出し / スキップ**

ボリュームダイヤルを上へ1秒間回すとスキップします。下へ1秒間回すと頭出しします。

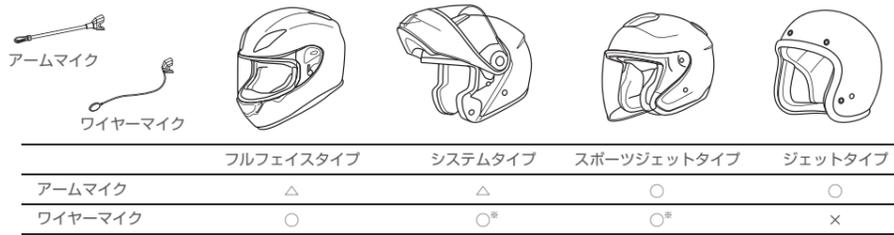
# B+COM SB4X Liteの音質性能を最大限発揮させるには、取付位置が重要です。

## 装着時の注意点

●このクイックマニュアルおよびヘルメットの取扱説明書に従って作業を行ってください。●内装が装着できるヘルメットは、耳に当たる部分の内装(チークパッド)を外しておくと、作業がスムーズに進みます。●接着シートで貼り付けるパーツは、取り付け位置を仮決めして、操作に支障がないことを確認した後、接着面の清掃、脱脂を行ってから貼り付けてください。●余った配線は、傷つけないようヘルメットの帽体と内装の間に入れてください。●作業終了後、配線接続の最終確認をしてから動作確認を行ってください。●ヘルメットにより簡単に取付できない場合がございます。その場合はヘルメットをご購入された販売店様へご相談ください。(ヘルメットを加工する場合、お客様の自己責任の上で、加工、装着を行ってください。)

## はじめに

I.ヘルメットの種類に合わせてマイクを選びます。



\*チークパッド内に入るタイプのみ

II.マイクの種類に合わせて順番に取り付けます。



## スピーカーを取り付けよう

イヤースペースが見えるタイプ (SHOEI 社製、ジェットタイプなど)

ベルクロテープをスピーカー設置場所のヘルメット面にループ側、スピーカーの裏面にフック側を貼り付けスピーカーを固定します。



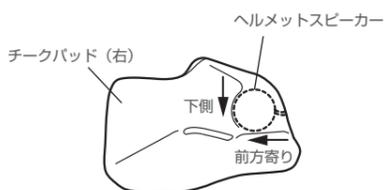
※左側のスピーカーも同様に取り付けてください。

調整パッド  
耳とスピーカーの隙間が大きい場合、必要に応じて挟んでください。(付属のパッド等で固定や調整が難しい場合は、ホームセンター等で調整しやすいものをお買い求めの上、装着してください。)

※ジェットヘルメットなどのヘルメットは外音が入ることが多く、フルフェイスタイプと比べると音質が劣る傾向になります。また、フルフェイスタイプであってもシールドの半開きやエアインテークの開閉状態により外音の入り込みが大きくなり、本来の音量、音質が得られない場合があります。

チークパッドのイヤースペースが布で覆われ、脱着できるタイプ (Arai 社製など)

チークパッドを取り外し、布の中へスピーカーを入れてベルクロテープで固定してください。

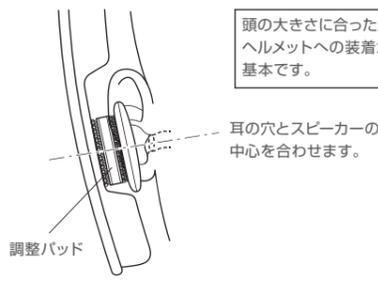


スピーカーはイヤースペースの下側、前方寄りに取り付けてください。  
・耳の穴とスピーカーの中心が合いやすくなります。  
・上側の耳たぶのスペースが空くので耳が押されにくくなります。

## 重要 POINT

### 取り付ける前に本来の音量を確認しましょう!

スピーカーを取り付ける前に、スピーカー単体を耳にあて本来の音量を確認しておき、ヘルメットを被ったときに同じように聞こえるようにスピーカーを設置してください。位置が適正でない、「耳が痛い」、「音量が小さい」、「ノイズがひどい」といった症状になります。



頭の大きさに合ったヘルメットへの装着が基本です。

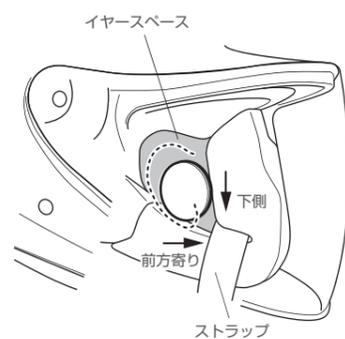
耳の穴とスピーカーの中心を合わせます。

耳にやさしくフィットするよう調整パッドで隙間を調整してください。

●隙間が大きい→  
本来の音量、音質が得られない可能性があります。

●耳の中心からずれている→  
本来の音量、音質が得られないだけでなく、長時間の使用で耳が痛くなる可能性があります。(特に耳の上部)

スピーカーはイヤースペースの下側、前方寄りにストラップの付け根に寄せるように取り付けてください。  
・耳の穴とスピーカーの中心が合いやすくなります。  
・上側の耳たぶのスペースが空くので耳が押されにくくなり使用中に耳が痛くなりにくくなります。



ワイヤーマイク UNIT 同梱品

## ワイヤーマイクを取り付けよう

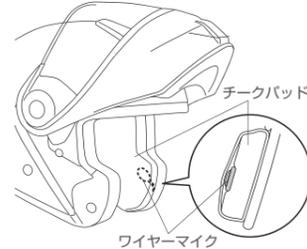
ワイヤーマイク



チンガード部の口元に接着シート付きのワイヤーマイク用スポンジを貼り付けます。なるべく下からの巻き込み風が少ない位置に設置してください。

ワイヤーマイクはヘルメット帽体(外装)とチークパッド(内装)の隙間からケーブルが出るように配線し、マイクスポンジのスリットにマイクを挿入します。

システムヘルメットや頬パッドの外布が外れるスポーツジェットの場合

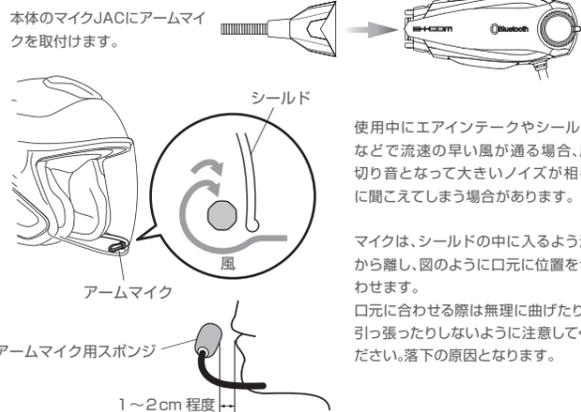


システムタイプ/スポーツジェットタイプのヘルメットでは、シールドの開閉時にマイクが邪魔にならず快適な使用感を得られます。またフルフェイスでも風切り音の大きい場合は、左頬側チークパッドの外布の内側にワイヤーマイクを仕込むことで風切り音が低減できます。マイクの位置は頬とスポンジに挟まれることができる限り口元に近い位置に入れます。

アームマイク UNIT 同梱品

## アームマイクを取り付けよう

アームマイク



本体のマイクJACにアームマイクを取付けます。

使用中にエアインテークやシールドなどで流速の早い風が通る場合、風切り音となって大きいノイズが相手に聞こえてしまう場合があります。

マイクは、シールドの中に入るよう淵から差し、図のように口元に位置を合わせます。口元に合わせる際は無理に曲げたり引っ張ったりしないように注意してください。落下の原因となります。

●マイク用スポンジは物理的に風切り音を軽減しますので、必ず使用してください。  
●タンデム時、パッセンジャーはライダーからの巻き込み風がヘルメットに強く当たりヘルメット内へ侵入した巻き込み風がノイズとして相手に大きく聞こえる場合があります。(シールド半開き時は特に増大します)

## ベースを取り付けよう

貼り付け型ベース

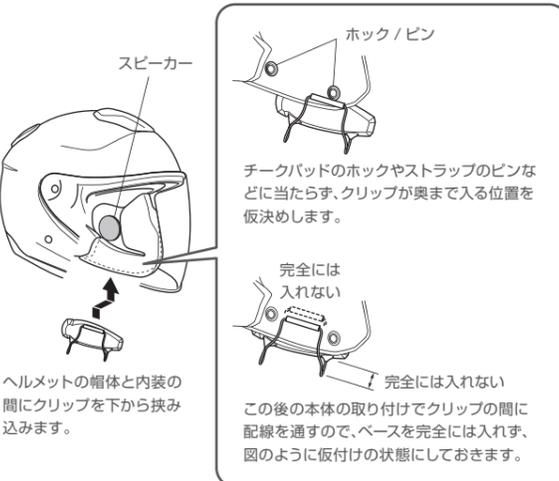


付属の面ファスナーを貼り付けベースとヘルメット貼り付けます。

ヘルメットとベースのカーブが大きく異なる場合は市販の強力な両面接着シートで隙間を埋めてから貼り付けます。

※アームマイクを使用する場合は、マイクが口元の位置になるようにアームの長さを考慮の上、ベースの位置を仮決めしてください。

<別売のワイヤークリップ型ベースをご使用の場合>



ホック/ピン

チークパッドのホックやストラップのピンなどに当たらず、クリップが奥まで入る位置を仮決めします。

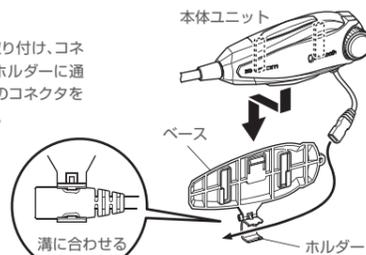
完全には入れない

完全には入れない  
この後の本体の取り付けでクリップの間に配線を通すので、ベースを完全には入れず、図のように仮付けの状態にしておきます。

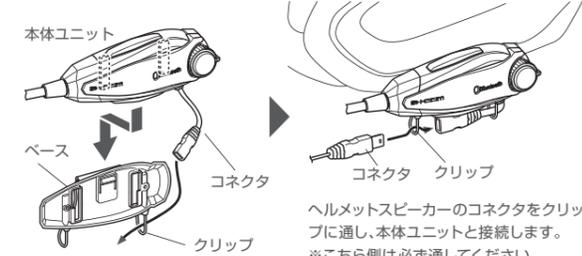
## 本体を取り付けよう

貼り付け型ベース

本体ユニットをベースに取り付け、コネクタの溝を合わせながらホルダーに通し、ヘルメットスピーカーのコネクタを本体ユニットと接続します。



<別売のワイヤークリップ型ベースをご使用の場合>

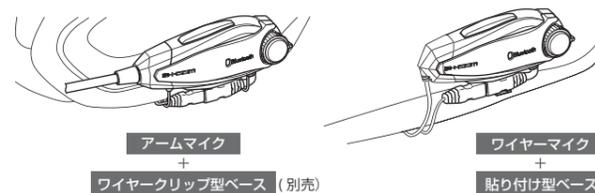


本体ユニットのコネクタをクリップに通してから、ベースに取り付けます。 ※付け外しが多いなら通さないでOK

⚠ 取付・取外時、折り曲げ、引っ張り厳禁!  
⚠ 本体ユニットから出ているUSBコネクタはやさしく扱ってください。過度な力がかかるとう断線します。また、必ず固定してください。

## ケーブルを配線しよう

ワイヤーマイクと本体ユニット間のケーブル、ヘルメットスピーカーと本体ユニット間のケーブルは、内装とヘルメット帽体の間に通してください。クラシックジェットタイプ等内装が外せない場合は、ヘルメット淵の帽体と内装の間にケーブルを傷つけないように押し込んでください。



アームマイク + ワイヤークリップ型ベース (別売)

ワイヤーマイク + 貼り付け型ベース